

## 開発事業地球温暖化対策結果

事業者の氏名 又は名称	独立行政法人都市再生機構神奈川地域支社 地域支社長 宮本保宏 神奈川県横浜市中区本町六丁目 50 番地 1			
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 4 丁目 33 番 1 号 ナイス株式会社 代表取締役社長 平田恒一郎			
開発事業の名称	(仮称) 川崎区小田栄計画			
開発事業を行う 土地の位置及び区域	川崎市川崎区小田栄二丁目 3 番 24			
開発事業の目的	共同住宅の建設			
工事の着手 予定年月日	2011 年	6 月	21 日	
工事の完了 予定年月日	2013 年	8 月	20 日	
開発事業の概要	区域面積	13,717.68 m <sup>2</sup>		
	床面積	53,362.46 m <sup>2</sup>		
主な建築物の内容	棟番号	用途	床面積	備考
		共同住宅	53,362.46 m <sup>2</sup>	
			m <sup>2</sup>	
			m <sup>2</sup>	
			m <sup>2</sup>	
		床面積の合計	53,362.46 m <sup>2</sup>	

(第2面)

温室効果ガスの排出の抑制等を図るため実施しようとする措置の内容	エネルギーの使用の合理化	<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネルギー等級3相当の断熱材採用により、省エネルギーや冷暖房効率の向上に配慮した。</li><li>・共用部の照明には長寿命である蛍光灯等を採用し、省エネルギー型の機種を極力使用した。</li><li>・自然冷媒ヒートポンプ給湯器の採用により革新的なエネルギー高度利用技術の導入した。</li></ul>
	ヒートアイランド現象の緩和	<ul style="list-style-type: none"><li>・敷地内を極力緑化するとともに、高木、中木等の緑により木陰を創出し、舗装面の照り返しの軽減に努めた。</li><li>・敷地内の歩行者路等については、インターロッキング等の自然的被覆に近い材料を使用、材料選定に関しては、浸透性舗装材の検討を行いヒートアイランド現象緩和に寄与するよう努めた。</li></ul>
	交通環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"><li>・駐車場の出入口とエントランス車寄せを分散配置し、出入庫時に車列を生じさせないよう配慮した。</li><li>・駐車場等に看板を掲示し、自動車やバイクの利用者に対し、エコドライブ(アイドリングストップ等)の励行等を促している。</li><li>・公共交通機関の利用を促進している。</li></ul>
	緑地の保全と緑化の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・植栽樹種については、可能な限り計画地の環境特性に適した樹種を選定し、計画地内においても日影地には耐陰性のある樹種を選定した。</li><li>・植栽予定樹種は、花や紅葉等が見られる樹種を含め、季節感を楽しめる樹種とした。</li><li>・植栽基盤の整備にあたっては、必要な土壌量を上回る量の良質な土壌を使用した。</li><li>・緑の質の確保のため、施肥、除草・草刈等の適正な維持管理を継続的に行うよう促進している。</li><li>・高木、中木、低木、地被類を適切に組み合わせ、配植、密度を考慮した植栽を行い、多様な緑の創出、育成に努めた。</li><li>・計画地外周部の緑化及び駐車場棟の周囲に生垣緑化を行う他、大景木等を植栽することにより、計画地周辺の緑量感を創出した。</li></ul>
	工事に係る配慮	<ul style="list-style-type: none"><li>・特定の時間帯に工事用車両が集中しないよう、工程等の管理や配車の計画を行った。</li><li>・建設機械による負荷を極力少なくするために、施工方法や手順等を十分に検討し、建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努めた。</li><li>・建設機械は、可能な限り排出ガス対策型建設機械を使用するよう努めた。</li><li>・建設機械の使用にあたっては、整備、点検の徹底を指導、実践した。</li><li>・建設機械のオペレーターに対し、アイドリングストップ等の徹底を指導、実践した。</li><li>・建設時に発生する廃棄物のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に定める特定建設資材廃棄物について再資源化を行い、その他の廃棄物についても、廃棄物の種類毎に分別・保管し、可能な限り再資源化を行った。</li><li>・建設資材等の搬入に際して、過剰な梱包を控えるなど、発生量の低減を図った。</li></ul>

	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築設計に際しては、ステンレス配管等の採用により設備的長寿命化を図り、リサイクルしやすい建材の採用に務める事により環境に配慮した計画とした。</li> </ul>
再生可能エネルギー源の利用	導 入 機 器	ヒートポンプ給湯器

(第3面)

	棟番号	評価の目標	評価の結果
特定建築物の評価		総合評価 B+以上	総合評価 A
備考			

- 備考 1 用途の欄は、次から当該予定建築物の主たる用途を記入してください。  
[事務所/学校/物販店/飲食店/集会所/工場/病院/ホテル/住宅/その他]
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 特定建築物の評価については、予定建築物が川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例(平成11年 川崎市条例第50号)第127条の4第1項の特定建築物に該当する場合、同項第5号に規定する環境性能の評価の目標について記載してください。